

復興副大臣 浜田 昌良 様

復興に向けた要望について

常磐自動車道浪江インターチェンジ開通（平成 26 年 12 月 6 日）



開通式典の様子

平成 27 年 1 月 5 日

福島県浪江町長 馬場 有

復興に向けた要望について

1. 12市町村の将来像の早期具体化

昨年末にはイノベーション・コースト構想の具体化や 12市町村の将来像の検討も動き出した。復興庁の推進力に感謝申し上げるとともに、被災地の今後の方向性を早期に強く打ち出してほしい。

2. 中・長期的な財政支援措置

浪江町復興まちづくり計画に基づき、平成 29 年 3 月の帰町開始を目指して、町内の復興事業がまさにこれから本格化していく。

イノベーション・コースト構想に関しても「それぞれの強みを生かした役割分担」が必要との考え方のもと、昨年 10 月に「浜通りの再生に向けた浪江町のあり方～双葉郡北部の復興拠点～」として考え方をとりまとめたところ。

これらの実現にむけてさらに具体事業を精査していくので、適切かつ十分な予算の確保をお願いしたい。

3. JR常磐線の早期復旧

昨年11月に浜通りの復興に向けたJR常磐線復旧促進協議会を立ち上げていただいた。

鉄道は物流、人流の基軸になるものであり、復旧の状況によってはこれからのまちづくりのかたちに大きく影響するものである。

特に、避難指示解除後の当面の間は高齢者が多いことが想定されることから公共交通機関としての役割は大変重要であり、また、中間貯蔵施設への除去土壌等の搬入によって道路が飽和状態になることも予想されることから、早期復旧を強く求める。

4. 道の駅構想の推進

浪江町復興まちづくり計画に基づき、町の歴史・文化、震災からの復興等の発信拠点として「道の駅なみえ（仮称）」の整備を計画している。

県や関係機関と協議していくが、実現に向けて復興庁としても、予算面を含め強く後押しいただきたい。